

3兄弟と父が結束

朝雲流れて 金色に照り

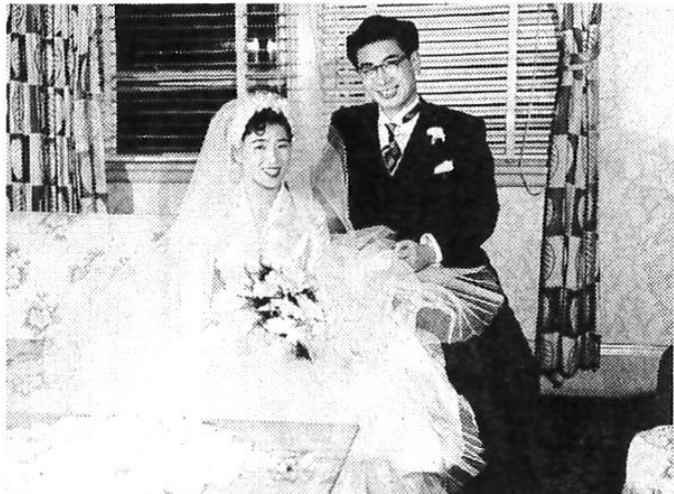
戸田中央医科グループ創設者
中村隆俊の半生

中村3兄弟の初めての
城、板橋中央病院がスタ
ートした。若い3人だっ
たので、まさに寝食を忘
れ、一生懸命に働いた。
当時の板橋区小豆沢は高
度経済成長時代の日本の
象徴みたいところで、
田舎から東京に出てきた
人たちも多く、人口が急
増していた。

医院は小豆沢にあった
が、戸田橋を渡った埼玉
の戸田方面からも往診の
依頼がよくあった。往診
は隆俊の役割だった。深
夜の往診も頻繁で、バイ
クの後ろに看護師さんを
乗せて田んぼの中を走っ
た。冬の夜などは防寒の
ために新聞紙を腹に巻い
て出掛けた。

多忙な日々の中、兄哲
夫が結婚したこともあ
り、隆俊も身を固めたい
と思うようになってい
た。当時、紹介してくれる
人がいて、広島に本社を
置く中国新聞東京支社長
の立花義孝の一人娘、悦
子との縁談が持ち上がっ
た。

隆俊は一目で気に入っ
た。悦子の器量がよくて
品のあるところが気に入
り、悦子も隆俊の凛とし



妻悦子と結婚した隆俊。
悦子は当時珍しかったウ
エディングドレスを身に
まとった。1957年

診療にまい進

【第6話】

「愛し愛される」理念
のもと、まさに日夜、寝
食を忘れ3人が3本の矢
になつて診療にまい進。
その結果、地域から信頼
され、受診される患者が
多くなり、病院が手狭に
なつてきた。

そこで、58(昭和33)
年11月に鉄筋コンクリー
トの4階建新館を新築
し、病床も40床まで増や
し、名称も板橋中央病院
とした。診療科目も、従
来の内科、外科、整形外
科の他に小児科、産婦人
科、耳鼻咽喉科、眼科を
加え、総合病院化してい
った。

59(昭和34)年8月に
は、父末吉が故郷の瀬棚
を引き払つて、3人の病
院の経営を手伝うことにな
つた。それまで兄弟3
人は診療に専念していた
のだが、病院が順調に拡
大していく中で、経営と
いう観点も必要になつて
きた。そこで、雑穀商と
して北海道で一番といわ
れた父の経営力を生かす
ことにしたのである。

末吉は病院事務長とし
て、中村商店で培った経
営手腕を遺憾なく発揮し
てくれた。おかげで、そ
れ以降、兄弟3人は気兼
ねなく診療に専念できた
のである。(敬称略)

火曜日に掲載